

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立城北小学校の結果

～分析から見てきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	旭区
学 校 名	大阪市立城北小学校
学 校 長 名	高濱 将幸

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立城北小学校では、第6学年 32名

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立城北小学校の結果概要

国語については、大阪市の平均と同程度、全国平均（60.9％）に近い結果となった。特に、資料や情報を整理して捉える「情報の扱い方」については、全国平均を上回っており、これまでの学習の成果が表れている。

一方、算数については、大阪市平均（56.0％）及び全国平均（56.4％）を少し下回った。特に、表やグラフなどから必要な情報を読み取り、複数の情報を関連付けて考える「データの活用」や、数量の関係を図などを用いて捉える問題に課題が見られた。

今回の結果を踏まえ、本校では、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るとともに、「情報を読み取る」「根拠をもとに考える」「自分の言葉で説明する」といった学習を大切に、児童の思考力・判断力・表現力の育成に取り組んでいく。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

国語では、「情報の扱い方」の正答率が全国平均を上回り、文章や資料から必要な情報を整理して捉える力に一定の成果が見られた。また、文章の構成を考えたり、文章の内容を自分の経験と結び付けたりする問題についても、比較的よくできていた。

一方で、漢字や語句などの「言葉の特徴や使い方」については、全国平均を下回った。また、文章や資料から得た情報を根拠として、自分の考えを文章にまとめる問題にも課題が見られた。

今後は、日常の授業の中で、「なぜそう考えたのか」「どの部分を根拠にしたのか」を明確にしながら、自分の考えを書く活動を充実させる。また、漢字や語句についても、単に覚えるだけでなく、文章の中で実際に使うことを通して、確実な定着を図る。

【算数】

算数では、「測定」の領域が全国平均と同じ正答率となっており、これまでの学習の成果が表れている。

一方、「データの活用」や「図形」、「変化と関係」の領域では、全国平均を下回った。特に、表から複数の条件に合う情報を読み取ったり、割合や数量の関係を図と結び付けて考えたりする問題に課題が見られた。

また、知識や技能を活用して考えたり、その理由を説明したりする「思考・判断・表現」の問題、特に記述式の問題についても課題が見られた。

今後は、具体物や図、表、グラフなどを活用しながら、数量の関係を視覚的に捉える学習を充実させる。また、答えを求めるだけでなく、「どのように考えたのか」「なぜその答えになるのか」を説明する活動を大切に、数学的に考える力の育成を図る。

今回の調査結果は、児童一人ひとりの学力や学習状況の一側面を示すものである。結果を単に平均正答率の比較として捉えるのではなく、本校の教育活動を振り返り、今後の授業改善につなげることが重要である。

「大阪市ティーチング・エンパワーメント事業」のスクールアドバイザー派遣を受け、以下の項目について年間を通じた指導・支援を受ける。

- ・基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着
- ・資料や情報を読み取り、整理する力の育成
- ・根拠をもとに考え、自分の言葉で説明する力の育成

・日常生活や他教科の学習と関連付けて考える活動の充実

・日常生活や他教科の学習と関連付け、考える活動の充実

を大切にしながら、児童が「分かった」「できた」「もっと考えてみたい」と実感できる授業づくりに取り組んでいく。

質問紙調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」という質問において、最も肯定的に回答した児童の割合は 64.7% で、全国平均より 21.1 ポイント高い結果となった。また、「将来の夢や目標をもっていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」といった項目でも、全国平均を上回る肯定的な回答が得られている。本校で取り組んできた人権教育や地域連携活動の成果が表れ、児童の内面的な成長が確認できた。

また、人間関係や学校生活に関わる質問として「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では最も肯定的に回答する児童の割合が 88.2% で全国平均より 7.1 ポイント、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問で全国値を 10 ポイント前後上回るなど、児童が人権尊重の姿勢を身につけているとともに、これまでの学校生活で相手の意見を尊重した民主的な話し合いを経験してきた成果だといえる。

一方で、否定的な回答が全国値を上回る項目も複数見られ、他者との関係に悩みを抱えている児童の存在も明らかになった。先生や周囲の大人との関係に関わる質問項目で、否定的な回答をした児童もあり、児童の個性や状況に応じた丁寧な関わりをしっかりと行い、全ての児童が安心して相談できる環境をさらに整えることが重要である。今後は、児童がさらなる自信を育み、夢や目標を実現できるよう、人権教育やキャリア教育の一層の充実を図るとともに、社会貢献意識を継続的に高められる取組を推進し、肯定的な回答の割合を全体的に向上させていきたい。

また、いじめ防止の意識を形だけで終わらせず、具体的な行動や日常生活での相互理解につなげる取組を継続することで、より安全で信頼に満ちた学校づくりを進めていきたい。

今後の取組（アクションプラン）

○PC・タブレットなどのICT機器の使用頻度や活用による個別最適な学びや協働的な学びについては、今後さらに伸ばす余地があることが明らかになった。文章作成やインターネットによる調べ学習などの技術面については肯定的な回答が多いことから、これらの成果を活かし、さらに効果的な活用を進めることで、児童一人ひとりの学びの充実や協働的な学習活動の活性化が期待される。今後はICT機器の操作・活用力をさらに高める指導や、授業への実践的な取り入れを工夫することで、個別最適な学びと協働的な学びの双方をより一層充実させていきたい。

○人権教育を基盤とした「仲間づくり」と「学力向上」を今後も全校で行う。

○研究教科を昨年度に続き国語科とした。児童の実態を基にした課題設定や、発問の工夫、様々な交流の場の設定による話し合い、学習の振り返りを充実させる授業研究を行う。「ティーチング・エンパワーメント事業」より派遣されたスクールアドバイザーによる指導を年間を通じて受け、国語の指導力向上を図る。

○区役所「学力アップアシスト事業」を活用し、今後も基礎基本となる学力の定着を図るとともに、個に応じた指導・支援の充実を図り、きめ細かい指導を継続して行う。

○たてわり班活動をはじめとする異年齢交流を積極的に行い、自己の役割意識や自己有用感を高めることで、自己肯定感の向上に努める。

○課題解決に向けて粘り強く取り組む児童の育成を目指し、探究的活動や問題解決型学習を取り入れた授業改善に取り組んでいく。

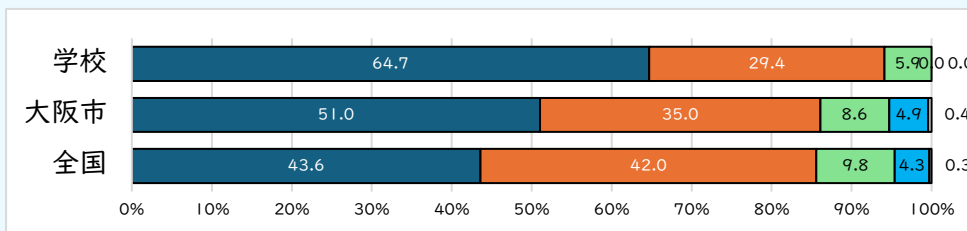
令和8年度 全国学力・学習状況調査 児童質問調査より（1）

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号 質問事項

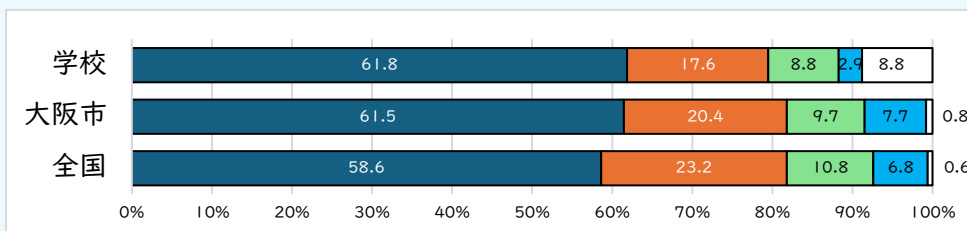
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

(8) 自分には、よいところがあると思いますか



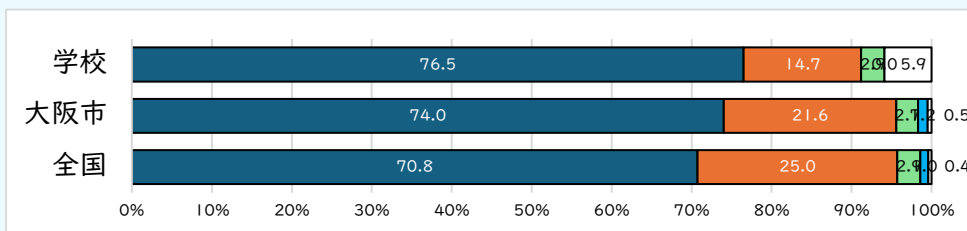
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(10) 将来の夢や目標を持っていますか



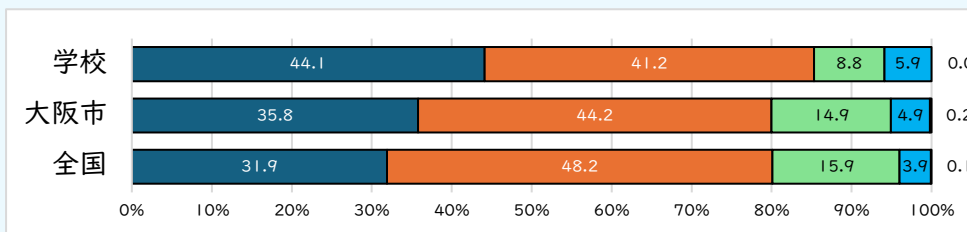
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(14) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



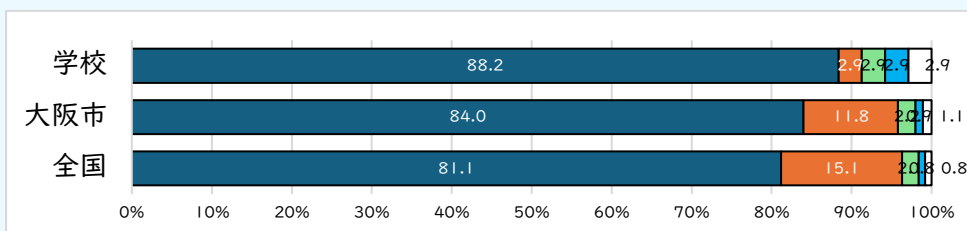
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(33) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(12) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

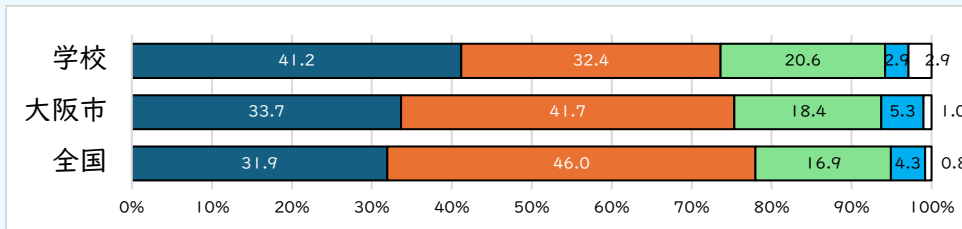
令和8年度 全国学力・学習状況調査 児童質問調査より（2）

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号 質問事項

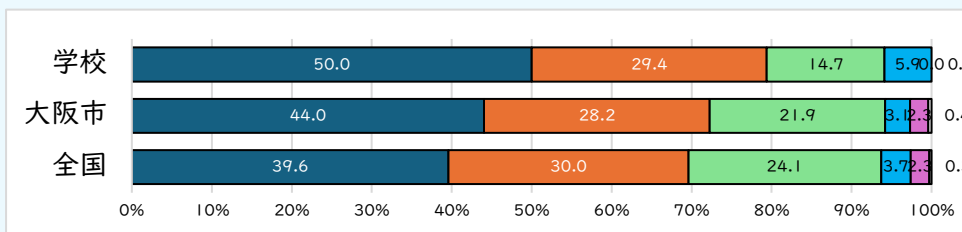
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

(16) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



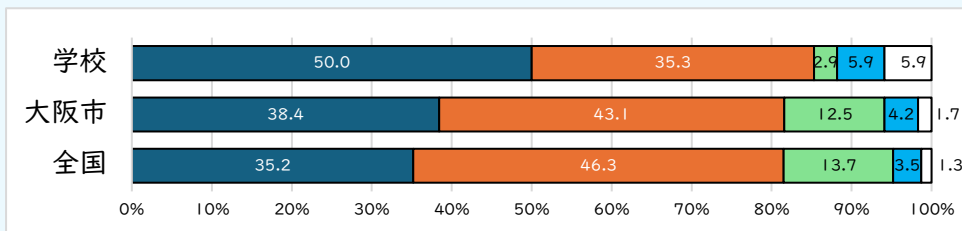
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(20) あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか



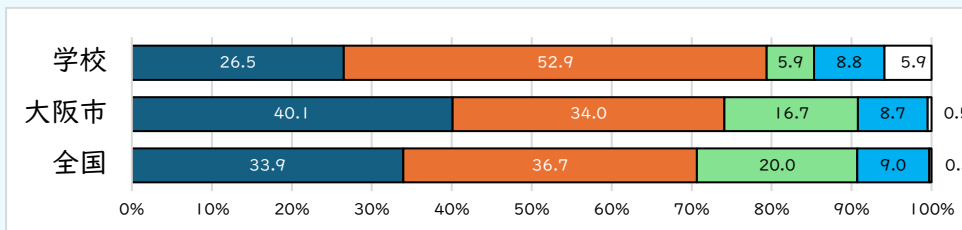
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらともいえない
4 どちらかといえば、当てはまらない
5 当てはまらない

(49) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



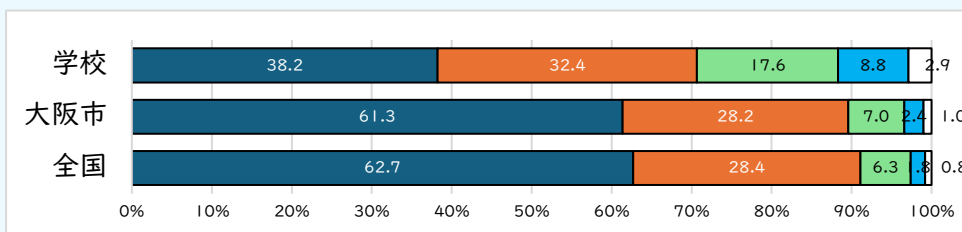
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(13) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(17) 友達関係に満足していますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

令和8年度全国学力・学習状況調査 学校質問調査より

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号

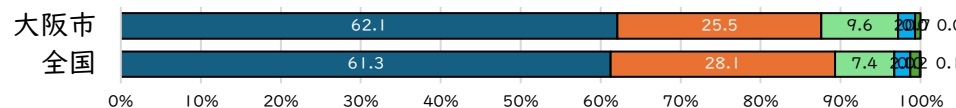
質問事項

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

(15)

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

【学校の回答】 1 週に1回程度、または、それ以上行った

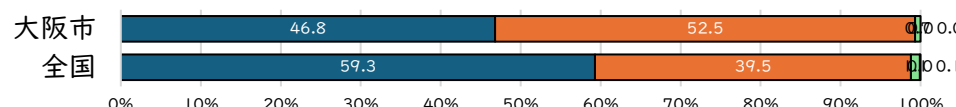


- 1 週に1回程度、または、それ以上行った
- 2 月に数回程度行った
- 3 学期に数回程度行った
- 4 年に数回程度行った
- 5 行わなかった
- 6 特に問題を抱えていなかった

(11)

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか

【学校の回答】 1 よく行った

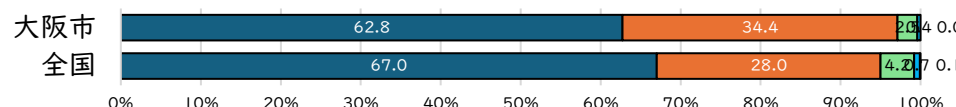


- 1 よく行った
- 2 どちらかといえば、行った
- 3 あまり行わなかった
- 4 全く行わなかった

(13)

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる体制となっていますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

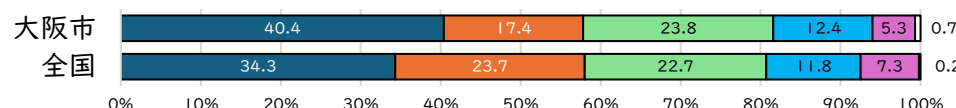


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(63)

教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

【学校の回答】 2 週3回以上

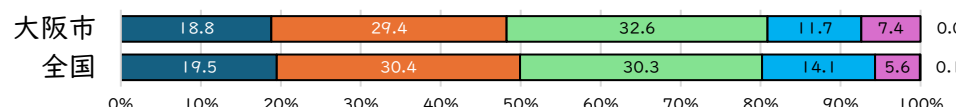


- 1 ほぼ毎日
- 2 週3回以上
- 3 週1回以上
- 4 月1回以上
- 5 月1回未満

(65)

調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

【学校の回答】 2 週3回以上



- 1 ほぼ毎日
- 2 週3回以上
- 3 週1回以上
- 4 月1回以上
- 5 月1回未満